

21世紀のまちづくり＝日本再生の総合特区

平成23年5月15日 NSP 都市計画研究会

国家の基本理念（藤原さんの20110218メモ）

国家運営の基本理念：偉大なる共生社会の創造—共生とは進化なり—
国家運営のビジョン：21世紀世界初の戦略的低エネルギー社会の建設
国家運営で最も大切にされるもの：健康と持続可能性

具体的戦略：

(1) 一人一芸 プラス チームワーク：個の花を咲かせよう

老いも若きも個性を生かして生涯現役、都市も地方も個性を生かしてそれぞれ発展。

(2) 新しい人生設計

20代は模索、30代は現場、40代は現場のリーダー、50代は経営のリーダー、
60代以降は本当にやりたいことに打ち込む第2の人生。

(3) 少子高齢化時代に競争力のある経済

量から質へ、唯一無二の高付加価値製品の開発と世界への貢献。

(4) 外交安保以外は徹底的に地方分権

21世紀の新しい地方国家の建設。地方で循環（人・権限・財源・資源）、地産池消。

(5) 政府の役割は地域ごとに設計運営

政府の運営は、地域の実情と戦略に合わせて。

(6) 日本の外交方針

ウィン・ウィンのたくましい外交。

(7) 政府に対する国民負担

地域ごとに設計。原則は中負担中サービスと、新しい公共の活用。

(8) 教育のこと

未だ国論統一せず。地方、地域ごとにベストと考える教育をそれぞれやってみて10年後に再検討。

当面の施策

- (1) 緊急雇用対策としての「日本列島の大掃除」
- (2) 国家目標を実現するためのひな型としての「総合特区の建設」
- (3) 全国の人、地域、企業を横に結ぶための「国民大集会の開催」

基本的な認識

①物質文明は極限まで行きついた

極限まで行きついたら、次は選択の時代である。

自らの理念に基づいて、どれを選択するか、どう編集するかが問題。

縄文時代の生活は、環境共生で、神々しい生活だった。

成長志向から、選択の時代へ。そして、物質文明と精神文明の融合（ハイブリッド）と相乗効果を。

②新しい社会の潮流

「世界最適生産・最適調達」の時代から、

「金融と市場原理主義」の時代から、

「生産と消費」の時代から、

「量・即戦力」の時代から、

「安価で大量の世界調達」の時代から、

「官と民の対峙」の時代から、

「地域・民族ごとの個性化」の時代へ。

「雇用が第一」の時代へ。

「所得と雇用」の時代へ。

「質・熟練」の時代へ。

「地域自給と戦略的低エネルギー」の時代へ。

「新しい公共」の時代へ。

③総合特区の狙い

行き過ぎから戻ってやり直す、という思想。大震災からの復興を契機として、新しい国づくりを。

総合特区の基本理念 偉大なる共生社会の創造 ～美しく豊かでモラルある国づくりのひな型～

・未来のサステナビリティな生活（ハイブリッドなクリエイティブライフ）

LOHASでクリエイティブな日常と、

舞台裏のスーパーテクノロジーが両立・補完・相互に支え合うハイブリッドな生活を、
信頼できる仲間たちとの協働で手に入れる。

総合特区のビジョン（夢・達成したいこと・実現したい世界・手に入れたいもの）

LOHAS社会、地産地消、戦略的低エネルギー社会の実現によって日本再生を目指す

人も社会も健康で持続可能性が高く、しかもそれがライフスタイルの中に組み込まれている。平和、経済、資源・食糧・エネルギー、治山治水、心身の健康、歴史文化などあらゆる面で持続可能性が高い社会。その実現のために個別に対処するのではなく、すべてが成り立つライフスタイルを形成する。次の都市計画の基本であるLOHASと地産地消、戦略的低エネルギーで、これまでの日本と上手に融合しつつ、今までにない新しい文化の創造を実現する。

「昭和30年代の日本」を戦略的低エネルギー生活の一つの手本に

豊かでモラルある国＝古い日本と折り合いをつけながら、LOHASの新しい文化、社会を。仏教と神道、欧化政策、加工貿易など、日本は共生・融合によって進化し続けてきたが、それでも誇るべき文化やシステムは、日本の風土に、日本人の精神に、習慣に、しっかり残っている。そして、それは世界の憧れとなっている。これが日本の価値であり存在意義であり、防衛力でもある。

具体的なイメージ

- ①風景・景観・・・「森に浮かぶ国、日本」「自然と戦わず、自然と共にある国、日本」
- ②仕組み・・・LOHASと地産地消、戦略的低エネルギー、ハイブリッド
- ③暮らしぶり・・・3世代がそれぞれ役割を持ち、家族として、生涯現役で暮らす世の中
- ④働き方・・・熟練形成が重視される社会
(職業によって服装や体格、ライフスタイルが異なり、一見して職業がわかる社会)

選 択

低層低密の分散社会と、高層高密の集中社会の、両方が存在し、人々は選択する。
バーチャルな世界でのやり取りと、土に近いリアルな世界での生活を、人々は選択する。

バリュー（志・価値観・行動規範・信条・信念・ポリシー・大切にしたいこと）

①健康であること。持続可能性が高いこと。

人の衣食住全般、そして自然や地球全体の健康を考え、持続可能性ということに価値を置いて、自分のライフスタイルを再構築。そして、常に美しいか否か、本物か否か、LOHASか否か、自然と共にあるか否か、地産地消か否か、上品か否か、を大切に考える。

②横型リーダーシップ（グレートコラボレーション）、チームワークを基本とすること。

人と人との結びつきを意識し、その思い、自覚と責任感で、多くの人の思いと知恵を融合。
一人一人がリーダー。

③バランス感覚を大切にすること。

考え方・生き方として、バランス感覚（新旧・労使・人と自然、共済、コラボレーション）を大切にす
る。道徳経済合一、モラルのある競争、労使バランス、競争の功罪を踏まえたバランス感覚など。論語
や儒教をベースにしたガバナンス、生き方で。ハイブリッドな考え方で。

④至誠一貫

社会に大切なことを、粘り強く、繰り返し、言い続ける。やり続ける。ぶれない。日本再生に携わる喜
びを次世代に引き継ぐために努力。公共と子孫のために、血と汗と涙、努力を惜しまない。御用達の心。

⑤天命、使命、楽天

何でも明るく楽しんでやる境地。人それぞれの個性を活かす。前提は、人の嫌がることはしない。そし
て仁・信を大切に。

※明治政府がどこかに置き忘れてきた理念・初心。過ちを繰り返さぬよう、理念と初心を大切に。

ストラテジー（戦略・具体的に行うこと）

【戦略その1：価値観の転換】

- ・ 国民総幸福量（GNH）世界一をめざす。地域の豊かさを経済規模だけでは計らない。国民総幸福量を高め、みんなが幸せを感じられる社会を作る。
- ・ 脱物質社会へ。価値の基準をモノからサービスへ、モノから人へ。物質経済から知識経済へと移行する中で、投資の対象も物的資源から人財へ。
- ・ 生命こそプライオリティNo. 1。サステナビリティは人間の希望を次の世代へと引き継ぐため。生命と健康が第一優先課題。
- ・ 自然と共に生きる。全ての生命の源である地球とその自然を保全することは、私たちの責任。
- ・ マイナスインプクトレジャーを楽しむ。遊ぶ時まで環境負荷と縁が切れないのは野暮というもの。知恵を働かせてサステナブルなレジャーを楽しむ。

【戦略その2：総合特区をつくる】

- ・ 山の上から河川を経て海まで、中山間地、都市を一体の総合特区に指定し、実験的に21世紀らしい日本のひな型を創ってみる。こうした総合特区を日本全国の各地域に創り、地域色豊かな21世紀の地域を生み出す。その過程で生まれる高い付加価値を持った技術、仕組み、人材、特産物などが、国内外に普及することで、総合特区のコストを回収する。
- ・ また、総合特区を創るために必要な人材、資金、技術、技能、さらには特産物の販売先などは、日本再生のために創設する平成版日本興業銀行が仲介し用意。平成版日本興業銀行は、経営と、技術と、市場の分かる人たちが構成し、実質的に総合特区のメインバンクとなる。

制度・技術・システムづくり

①制度：規制強化と規制緩和を併用した制度改革（21世紀らしい制度づくり）を

- ・ 公共性：皆で我慢すると、皆で得をする仕組みが「公共性」。
- ・ 一国複数制度＝地域らしさを演出するために、地域ごとの制度設計を、現場の発想で。

②技術：LOHASと低エネルギーの技術の結集を

- ・ 個別の技術を統合する（衣食住遊働のすべての場面で。環境技術なども）。新しい技術と仕組みとビジョンで、40年前の街と田舎に戻し、日本再生のモデルを実践する。
- ・ 中核的戦略としての「戦略的低エネルギー」。脱原発で、地域で使うエネルギー総量を3分の1、5分の1にし、なお現在より生活の質を向上させる（ハイブリッドな生活）。
- ・ 再生可能エネルギー100%の地域づくりへ。豊富なバイオマス資源を有効に活用し、風力、水力、太陽光など再生可能エネルギーの利用を促進することによって、脱化石燃料を実現する。
- ・ 地域の脱炭素化をめざす。都市のスケールメリットを活かして、資源・エネルギーの循環利用を促進し、地域の脱炭素化をめざす。過疎化が進む地方では、自然共生型のエコシティを実現する。

③情報：情報アクセス100%を

- ・ 誰もがいつでも必要な情報に簡単にアクセスでき、自分の意見を発信でき、信頼できるサービスを利用することが出来る社会を実現する。

国土づくり

③逆・公共事業

- ・ 日本の風土を復元する逆・公共事業を推進する。不要となった道路、建物、工作物を解体撤去して植林等を行い、日本の良さが引き立つような風土を回復する。特に風光明媚な場所の景観は徹底的に復元する。
- ・ また、地域の自然環境と対峙しない。その土地の自然環境と共生する土地利用への転換を進める。

④山林、河川、海、農地も貴重な資源として維持発展させる

- ・ 治山治水については、無理に守るのではなく、災害の起こりにくいところに居住する。
- ・ それぞれの環境資源の活用と、風景としての美しさを、維持発展させる。

暮らしづくり

⑤新しい都市と田舎づくり

- ・突破口として、新しいまちを創る＝昭和の時代の景観に戻す。山、中山間地、川、海の、昭和30年代の景観を再現しながら、中身は最新の技術と仕組みで21世紀の都市と田舎を創る。まちを整備することは、それを支える田舎の整備にもつながる。
- ・建築のゼロエミッションをめざす。長く住む住宅、効率良く使う建築。人の生活と、仕事をはじめ多くの活動が営まれる建築の建設・利用・廃棄を通して発生する環境負荷を極小に抑える。
- ・地域の気候風土、地形、地盤に合った国土利用、土地利用、住宅づくりを進める。
- ・温室効果ガス排出ゼロで移動する。環境負荷の少ない移動・輸送手段へとモーダルシフトを進めながら、 unnecessary 移動は極力抑え、社会的ニーズに合わせたきめ細かなサービスを実現する。
- ・いざという時に助け合える近所付き合い。生活基盤である元気で豊かな地域コミュニティの醸成を。

⑥風土の再発見

- ・地域の風土に合わせて、低エネルギーで快適に暮らすための工夫を（家、住宅地、地域）。暮らしの中に地域性（風土）を組み込み、風土との関連性を作る。自然との共生、歴史との共生、文化・伝統との共生。
「らしさ」を演出すれば、美しい地域になる、戦略的低エネルギーになる。
（上品なまち+低エネルギー＝美しいまち）
レトロ・フューチャー（懐古的未來）：懐かしい風景の中に、最先端の技術を埋め込む。
- ・新しい技術で、資源・食糧・エネルギーの多くを、地域で生産する。
交通も家庭も新しい技術を使って、循環可能なエネルギーによって成り立たせる。

産業づくり

⑦産業と生活

- ・地域の特産物を開発し、国内外に販売する。地域の特産物、地場産業を育成する。御用達。唯一無二の高付加価値製品。地域で資源食料の自給率を上げる。これを可能にする技術を開発する（地域で採れる原料を加工し部品や素材にし、生活を成り立たせる）。6次産業化の実現。
- ・食糧自給率100%の国づくりへ。安定供給自給自足の確立。カロリーベースの自給率を、農業の制度と技術の改革、国土に合った食習慣、食品廃棄物の極小化により100%にまで高める。また適地適作を進め、その土地の風土に合った農業を展開し、風景としても美しい地域づくりを進める。
- ・エコプロダクツ／エコサービスのみ流通する社会に。資源やエネルギーを使って物を作ったり、サービスを提供したりする以上、いかなる場合も環境に対する最大限の配慮が求められる。すべてがエコプロダクツ／エコサービスである社会。また、地産池消をすすめ、流通経路の短縮を進める。
- ・誰もが働ける社会をめざす。働く意思があれば、誰でもいつでも生涯を通して働くことが可能な社会。年をとっても、障害を持っても、やりがいをもって仕事ができる。また、ワークシェアリングを進め、余った時間は農業に充てる。
- ・意図的に体を動かし、熟練度を高める仕事を創出する。第一次産業の復興から始めよう。

【戦略その3：人づくり】

①人材育成

- ・教育も、学校と地域と職場と家庭が一体となっていく。
- ・生涯学べる教育環境を。誰もがいつでも学べる教育環境を整えることで、自分のペースで必要な知識を得ることが出来る社会。
- ・エコしぐさ、エコことばを大切にする教育を。日本には古来より、サステナブルな社会にふさわしい考え方や行いと、そのことを言い表す言葉とが今日まで多く伝わっている。そうした知恵を見直すことによって、これからの社会づくりに生かすことが出来る。
- ・古老の知恵を大切に。地域で昔から語り継がれていることを尊重し、その教えを守り、さらに次の世代につないでいく。このことが、安心安全でサステナブルな地域社会の形成に繋がる。

②人材活用

- ・いか(に)して自分の能力を社会に活かすか(公益のために、尽くせるか)。民の企業家精神と実業家連携、フロンティアスピリッツ。実務能力の高い人を。大義のために動ける人(利潤や損得ではない)を活かそう。
- ・高齢者に権力を与えない → 未来への投資ができない65歳以上は公職追放しよう！
ただし、古老の知恵は大切。

③専門家とまとめ役

- ・プランナーとオーガナイザーとコーディネーター(専門家を使い、日本全体を動かす)。

【戦略その4：具体的な進め方】

①新しい官民の関係：公共の仕事は、新しい公共の実現で、住民が担う分を増やしていく

- ・民主導で、官が協調(コラボレーション)
官民の連携、逆さまのピラミッド、中央と地方の連携。
(地方の人が主役。中小零細企業が主役。支援者としての行政。支援者としての中央)
全国各地の地方から政府機能を再建し、それぞれの新しい国を創る。
東京抜きネットワークで

②新しい中央と地方の関係：バランスある発展

- ・一極集中型・独占(寡占)の否定：特産品・地域開発(住宅・産業)・インフラの分散を。
- ・地域の方で(基本は自力で)：必要性を説き、人材を作り、地域にお金を用意させる。

③新しいファンド：平成版日本興業銀行(プロジェクト・ファイナンス)

- ・国家破産しても個人はたくさんのお金を持っているので、よく集めて、よく散ぜよ。
- ・平成版日本興業銀行と並行し、国を通さない新しい銀行としての、寄付の文化を！
- ・明確な未来像を見せて、金を未来に投資させる！そして、小さな政府を！

④新しい試みのエリア：総合特区のエリア

- ・市町村に関係なく、山から海まで、一つの流域単位で。
- ・国民運動で効果的な総合特区の創設機運を盛り上げ、官僚や政治家を誘導。
人と資源、お金が循環する仕組みを実験的に創設する「大きなエリア」の総合特区。
⇒ 仕組み(制度やインフラ)を見せるエリア
21世紀の新しい姿を思い切って見せる「小さなエリア」の総合特区。
⇒ 姿を見せるエリア

⑤新しい時代の扉：起爆剤(回天の原動力)で、人が集まる、金が集まる、人が走る

- ・求心力と波及効果の高い「起爆剤」が必要。
蓄財に焦点を当てながら、未来を感じさせる先進性。
伝統的な素晴らしさと、挑戦的な実験の組み合わせ。
- ・この時代の最高の人と技術と思想の結集・・・そのための「空気」を作る。
ステップ①政治経済の行き詰まり(機能停止)
ステップ②震災復興情報掲示板を通しての情報交換
ステップ③民主導の総決起集会
民間主体で結集(関係者をすべて集めた総決起集会を行い、全体として動き始める)
ステップ④集まった仲間たちと、新しい日本づくり、国家像について議論
すごい事例をみんなで見に行こう。アニメでも見せよう。
ステップ⑤そして、新しい国づくりへ
具体的に動くところから始める
(新しいまちを創る特区、既存のまちを再整備する特区、など)。
大震災からの復興を契機に、全く新しいビジョンによって世界をリードする地域づくりを